

平成 22 年度第 3 回キタミズクラゲ出現情報

岩手県水産技術センター

- ・ キタミズクラゲは、沿岸域の湾口部を中心として、再び分布量が増加した海域がみられています。
- ・ 本県の定置網では多くの漁場で操業の遅延などの影響が生じていますので、今後、しばらくの間はクラゲの入網急増にご注意下さい。

3 月以降、本県沿岸の各地からクラゲの出現に関する情報が寄せられており、定置網等の沿岸漁業や沖合底びき網で操業に影響が生じています。

5 月 31 日に、漁業指導調査船「北上丸」を用いて本県南部の沿岸域でクラゲの分布調査を行ったので、その結果をお知らせします。

【調査結果】

釜石湾から大船渡湾にかけて、海岸線に沿って目視と魚群探知機によりクラゲの分布状況を調べました(図 1、2)。各調査地点の表面水温は、越喜来湾内と綾里埼以南で 11～12℃台であったほかは 9～10℃台で、5 月 10～11 日の調査時よりも 1～2℃昇温していました。キタミズクラゲは、目視観察では釜石湾口部と唐丹湾口部で航走 10 分間あたり平均 10 個以上の高密度な分布が認められたほか、稚魚ネットを用いた採集調査では越喜来湾口部で曳網 5 分間あたり 50 個を超える高密度な分布が認められました。なお、5 月 10～11 日の目視調査で観察された分布個数は、釜石湾周辺(水温 8℃台)で多かった以外はいずれも今回の結果を下回る水準でした。

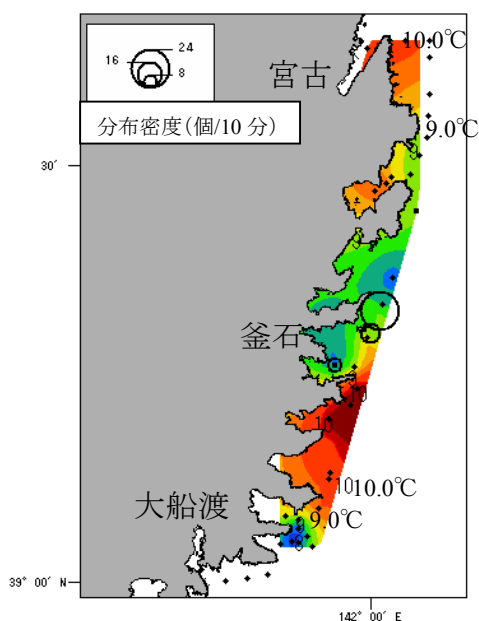


図 1 5 月 10～11 日におけるキタミズクラゲの分布密度(航走 10 分間あたりの目視観察個数)

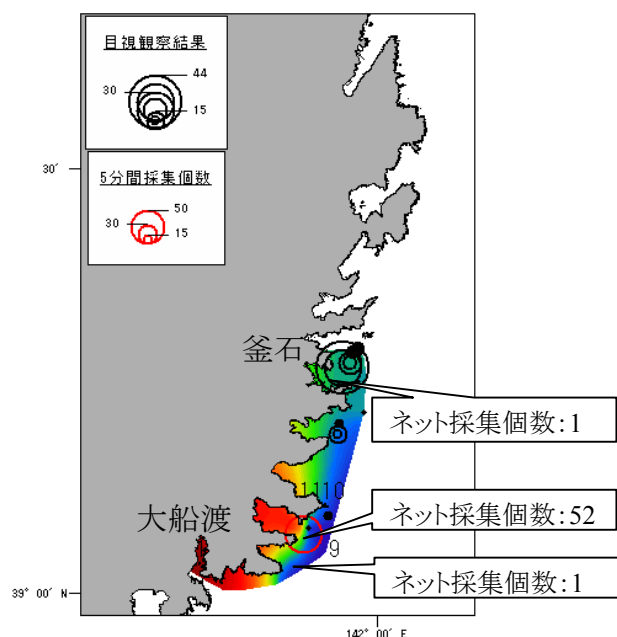


図 2 5 月 31 日におけるキタミズクラゲの分布密度(航走 10 分間あたりの目視観察個数と稚魚ネット 5 分間曳網による採集結果)

平成 22 年 6 月 1 日

本調査で確認されたキタミズクラゲは、湾口部付近に形成される潮目付近を中心として、5 月中旬に行った調査結果よりも分布密度が高くなっていました。ネット採集を行った 3 地点の水温鉛直分布は、いずれの海域も表面が 10℃ 台、10～20m 深が 9℃ 台、30m 以深が 8℃ 台となっていました。採集個数の多い越喜来湾口部では、表層の水温がほかの海域より低めでした(図 3)。

採集されたキタミズクラゲの傘径組成を図 4 に示します。本調査で採集されたキタミズクラゲの傘径範囲は 9～28cm で、22cm をモードとする 20～25cm が主体となっていました。平成 21 年 6 月中旬に行った調査結果と比較すると、傘径 20cm を超えるクラゲの占める割合が高くなっていました。

岩手県(一部は水産技術センター聞き取り)が行っている本県各定置網漁場のキタミズクラゲによる影響に関する調査によると、宮古地区が岩泉町と山田町地先の 4 漁場、大船渡地区がほぼ全域に及ぶ 9 漁場で何らかの影響が報告されています。クラゲの入網数は、漁場ごとに異なりますが、多いところでは 1 操業あたり数トン～100トンに達する漁場も報告されており、そのうち、いずれの漁場も作業時間・作業量の増大、一時的な操業の中断などの影響が報告されており、1 漁場では破網による漁具被害が報告されています。

本県沿岸の水温(図 5)は、前年に比べて低めの状況(岩手県水産技術センター発行海況速報 No.21 号)が続いており、キタミズクラゲは今後もしばらくは沿岸域で分布量の多い状況が続くと見込まれます。特に、分布密度が高くなる潮目が形成されている海域付近の漁場では、クラゲの入網量が急増する可能性があるのでご注意ください。

当センターでは、引き続きクラゲの出現状況の把握と情報提供に努めてまいりますので、クラゲに関する情報をお持ちの方は、担当までお知らせ下さい。

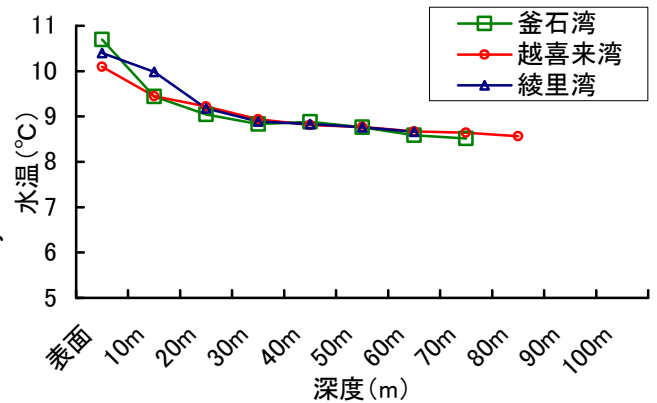


図 3 曳網調査を行った県南部 3 地点における水温の鉛直分布

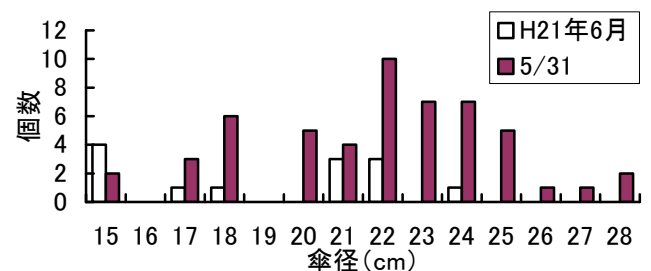


図 4 採集されたキタミズクラゲの傘径組成

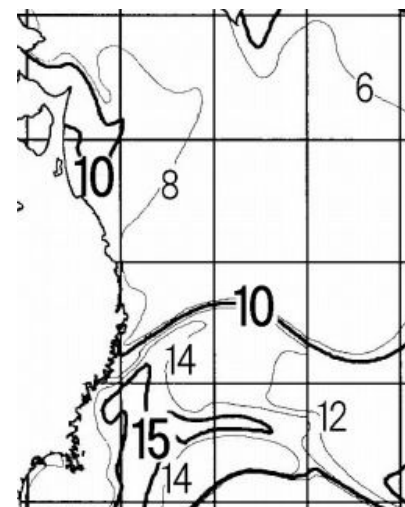


図 5 岩手県沖合の表面水温分布(海況速報 No. 21 から一部抜粋)

お問い合わせ先

岩手県水産技術センター漁業資源部 (担当:後藤)

電話 0193-26-7915/FAX0193-26-7920

E-mail: CE0012@pref.iwate.jp

ホームページ: <http://pref.iwate.jp/~hp5507>